

ミツバツチグリ

Potentilla freyniana

バラ科



ミツバツチグリ

名前の由来

類似種のツチグリに似ていて、葉が小葉3枚からなることから。ツチグリの根は生食でき、これが栗に例えられて名前となったが、ミツバツチグリの根は食べられない。漢字名：三葉土栗

形態的特徴

高さ15~30cm、全体に毛がまばらに生え、地面を這う長いほふく茎がある。葉は粗い鋸歯のある3枚の小葉に分かれ、これが三つ葉にたとえられる。葉の基部に、先端が数回切れ込んだ小さな托葉がある。花は鮮やかな黄色で径は10~15mm、5枚の花びら（花弁）があり、上部で枝分かれした

茎の頂に多数つく。

類似種と見分け方：草丈が低く黄色の花をつける他のバラ科草本。

ミツバツチグリは葉の形が三つ葉状で、葉柄の基部にある托葉に数個の切れ込みがあることで他の種と見分けられる。

生育環境・分布

平地~山地の日当たりのよい林内や草原で見られる。

分布：国外分布は、朝鮮、中国東北部、ウスリー、アムールに分布する。

国内分布は、北海道から九州まで分布する。

北海道内分布は、全道的に分布する。

十勝地方生育状況は、平地~山地の日当たりのよい林内や草原で見られる。



ミツバツチグリ。葉が三つ葉状になる

生活史

開花時期：5~6月。開花までの年数：不明。寿命：多年草。

他生物との関わり

チャマダラセセリの幼虫の食草となっている。



チャマダラセセリ

(撮影-吉原利之)

興味深い話

■ 関西より西に分布する近縁種のツチグリは、根が大きくて焼いて食べると栗のような味がするという。しかし残念ながらミツバツチグリの根はかたくて食べられない。



類似種のキジムシロ。全体が円状になる

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期			■									

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「花のおもしろフィールド図鑑 春」ピッキオ 実業之日本社 2001

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994